

# 多摩市 都市計画マスタープラン改定 地域別市民ワークショップ

～第1回 拠点別の魅力と課題を話し合おう～

日時：令和6年1月20日（土）9:30～12:00  
会場：多摩市役所 本庁舎301・302会議室



## 1 目的・第1回～第3回の流れ

### ○目的

- ✓ 地域の魅力や課題、目指すまちの姿についてワークショップ形式で検討を行い、その成果を都市計画マスタープランの拠点別・地域別の検討に反映させる。
- ✓ 市民が地域の問題解決やまちづくりに関心を持つきっかけを作り、協働のまちづくりを推進する。

### ○第1回～第3回の流れ

1回目 (1/20)

拠点別の魅力と課題を話し合おう

聖蹟桜ヶ丘駅周辺、多摩センター駅周辺、永山駅周辺、南多摩尾根幹線沿道それぞれの拠点の魅力や課題を協議

2回目 (1/27)

地域別の魅力と課題を話し合おう

多摩市を5つの地域に分割し、地域固有の魅力や課題を協議

3回目 (2/3)

目指すまちの姿を話し合おう

1回目、2回目を受け、5つの地域ごとに、将来の目指したいまちの姿を考える。

## 2 本日 (1/20) のプログラム

	時間
1. 開会・あいさつ	9:30～9:40
2. 都市計画マスタープラン改定の進捗状況/多摩市の現状について	9:40～10:00
3. ワークショップ 拠点別の魅力と課題 (ワールドカフェ形式)	10:00～11:30
～休憩～	
4. 意見共有	11:35～11:55
5. 閉会	11:55～12:00

### 3 ワールドカフェ形式とは

#### ○ワールドカフェの考え方

「知識や知恵は、人々がオープンに会話を行い、自由に繋がりを持てるカフェのような空間で生まれる」という考え方に基づいた会議方法で、リラックスした雰囲気の中、参加者が少人数に分かれたテーブルで自由に対話を行い、他のテーブルとメンバーを交換しながら話し合いを発展させていく手法です。

#### ○意見交換するエリアについて

##### 都市拠点

聖蹟桜ヶ丘駅周辺

多摩センター駅周辺

永山駅周辺

- ✓ 魅力ある拠点として、残したい・追加したい機能
- ✓ 他の拠点との違い
- ✓ にぎわいの創出に必要なこと
- ✓ 移動しやすい、歩きやすい拠点に必要なこと
- ✓ まちの安全性に必要な機能
- ✓ 整備された都市基盤の活用方法
- ✓ 新たなモビリティの活用方法・可能性
- ✓ 拠点軸との関係性

など

##### 拠点軸

南多摩尾根幹線軸

- ✓ 4車線化と新たな土地利用について、どのように変わってほしいか
- ✓ 求める機能について
- ✓ 南多摩尾根幹線の良いところ  
(伸ばしたい・活かしたい魅力)
- ✓ 新たな土地利用を進める上での課題  
など

### 3 ワールドカフェ形式とは

#### ○進行の流れ

✓ ①～④の流れを3回繰り返し行い、各拠点の魅力と課題について深く掘り下げ意見交換しましょう。

#### ①テーブル移動

拠点ごとにテーブルをご用意しましたので、話し合いたい拠点のテーブルに移動してください。

#### ②各拠点の魅力と課題を出し合う

移動したテーブルのエリアについて、魅力や課題を付箋紙に書いて意見を出し合しましょう。

#### ③アイデアを出し合う

②で共有された魅力や課題に対し、さらに魅力を活用していく方法や課題の解決策を考え、アイデアを出し合しましょう。

#### ④意見やアイデアを整理・共有する

②と③で出し合った意見・アイデアを整理し、共有します。

#### ○発言する際の注意点

✓ 今回、お集まりの方は、お住まいの地区、年齢構成も異なりますが、みんなが『多摩市』にゆかりのある人たちです。お互いが気持ちよく発言できるように、以下の注意点を守って意見交換しましょう。

#### ★話は短めに！

一人の人が話すすぎないことに注意しましょう

#### ★違って当たり前！

他の人の意見を否定しない、違いも受け入れよう

#### ★話をつなげる！

話の途中で割り込まない、話を楽しみましょう

#### ★共に考える！

できない理由ではなく、どうしたらできるかを考えよう

#### ★時間を守ろう！

時間を意識しよう。テーブルリーダーの声に耳を傾けよう

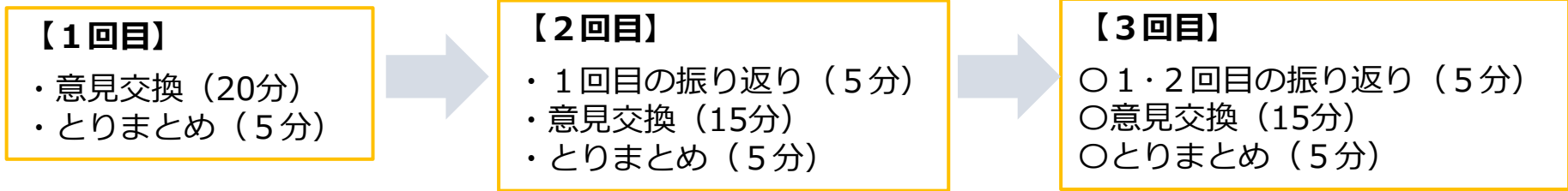
### 3 ワールドカフェ形式とは

#### ○スケジュール

- ✓ 約25分ごとにテーブルを移動していただき、様々なエリアや人と意見交換をお願いいたします。
- ✓ 4つのエリアのうち、意見交換に参加できるのは3エリアになりますのでご注意ください。
- ✓ 同じテーブルでの意見交換も可能ですが、最大2回までとさせていただきます。
- ✓ 1つのテーブルに人数が集まり過ぎると円滑な意見交換が困難となるため、1テーブルあたり10人を超える場合は、別のテーブルへ移っていただき、次の回にご参加願います。

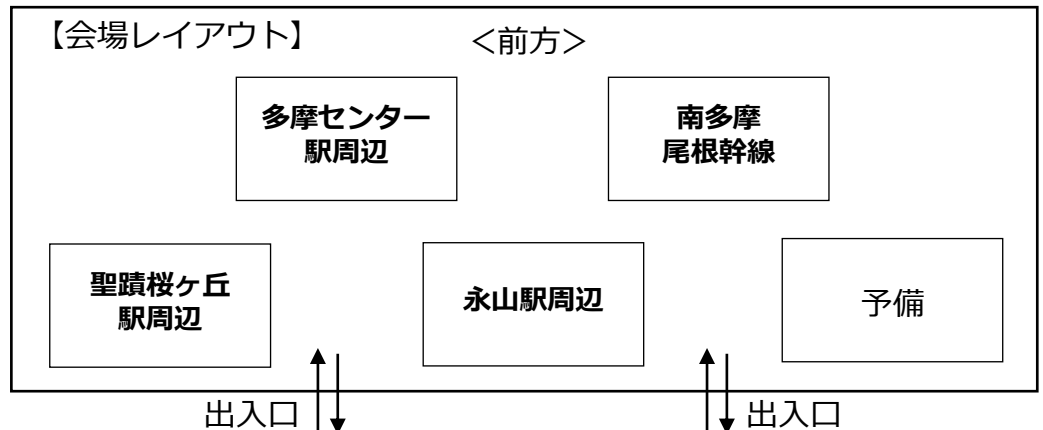
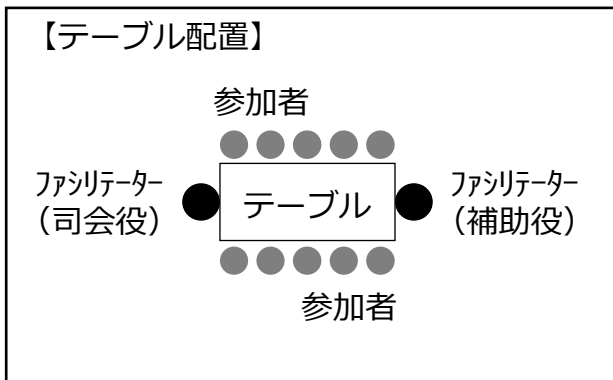
休憩・移動（5分）

休憩・移動（5分）



#### ○テーブルの配置

- ✓ 下図のようなテーブル配置・会場レイアウトで進行いたします。
- ✓ テーブル移動時には、話したい拠点のテーブルにご自身の荷物を持ってご移動をお願いいたします。



## 1 拠点別まちづくりの方針について

これまで検討してきた多摩市都市計画マスタープラン（骨子案）の“まちづくりの基本方針”に示した内容を踏まえ、地域特性に応じた様々な都市機能が集積し、人々の交流や活動の中心となる**都市拠点**と、多摩ニュータウンにおける新たな付加価値を創造する**拠点軸**の方針を定めていきます。

### 都市拠点

#### ● 聖蹟桜ヶ丘駅周辺

- ・市の中心的な拠点として、多様な機能が集積し、**柔軟な働き方や暮らし方**に対応した、**利便性の高い**拠点の形成を図ります。
- ・また、鉄道やバスなどの交通結節点として、**移動しやすく、回遊性が図られ、活気とにぎわい**がある空間を形成します。

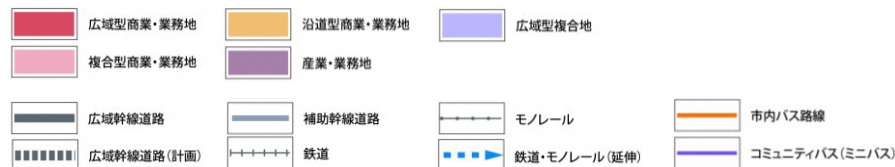
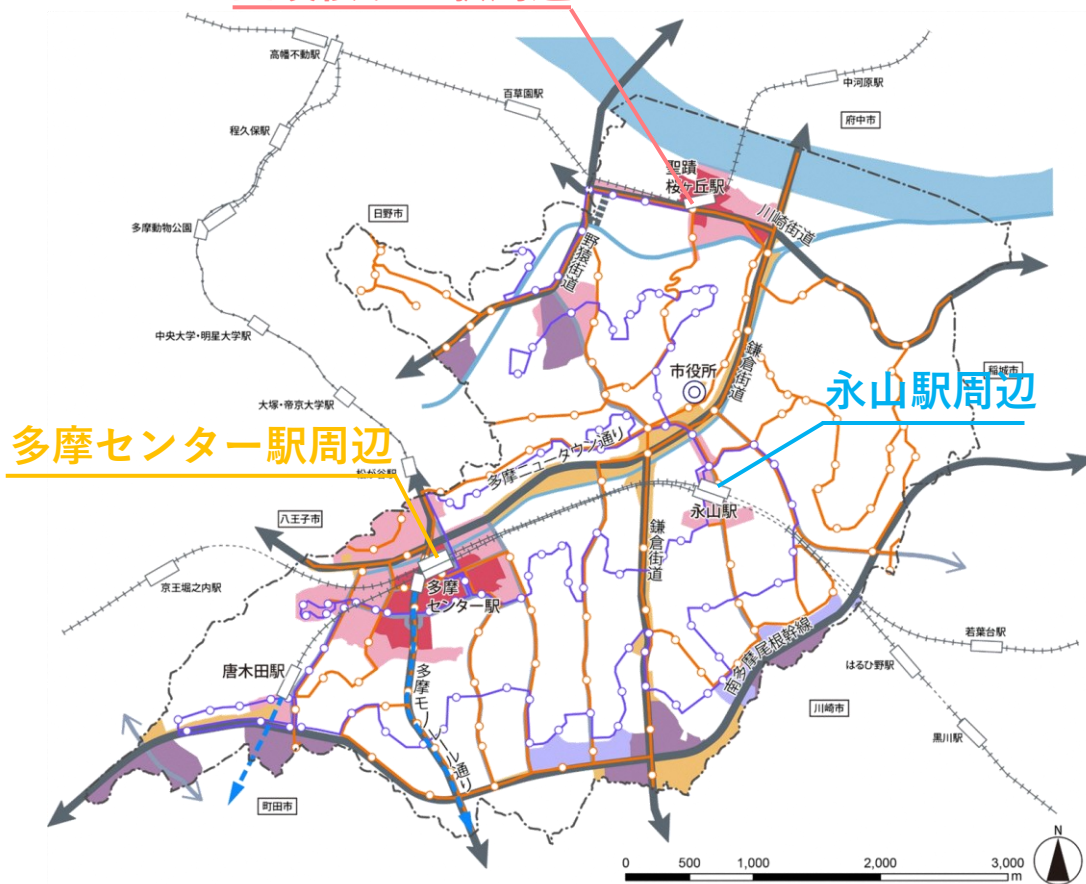
#### ● 多摩センター駅周辺

- ・市の中心的な拠点であるとともに、**多摩ニュータウンの中心**として、多様な機能が**高度に集積し、住宅など新たな都市機能**も加わった、**利便性が高い**拠点の形成を図ります。
- ・また、多摩都市モノレールの延伸による新たな交流の発生など、市内外から多くの人々が集まる交通結節点として、誰もが訪れやすく、**移動しやすい環境を整備**します。

#### ● 永山駅周辺

- ・多摩センター駅と連携しつつ、**生活サービス機能**をはじめとした複合的な機能が集積し、**住民利便性の高い**拠点の形成を図ります。
- ・また、建替え・再生等による**良好な住宅市街地**の形成、駅周辺の一体的な再構築に向けた検討、**南多摩尾根幹線**の4車線化と土地利用転換の検討を踏まえた**駅前**に相応しい**都市機能が集約**された拠点を形成します。

### 聖蹟桜ヶ丘駅周辺



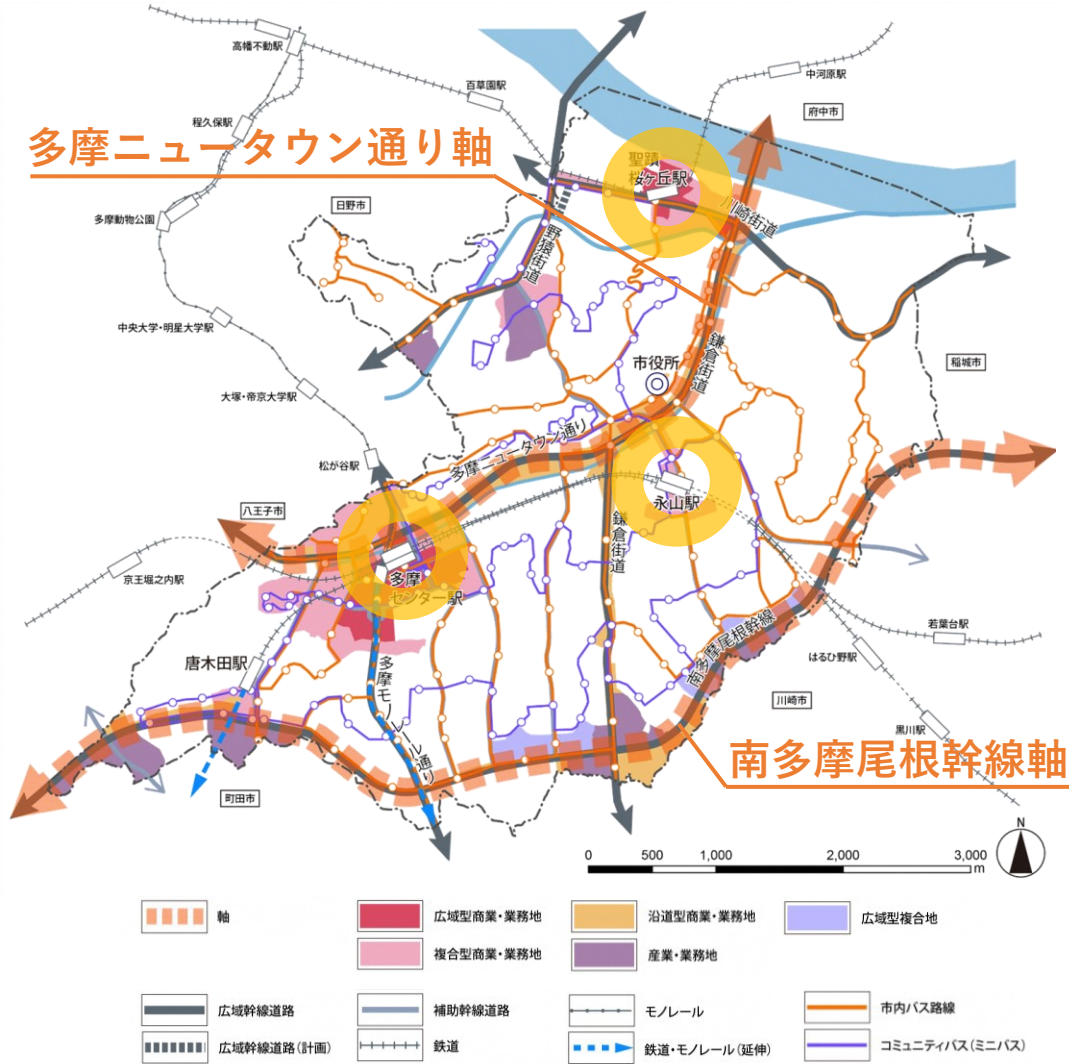
拠点軸

多摩ニュータウン通り軸

- 多摩ニュータウン通り軸は、市内の3つの都市拠点や既成市街地と多摩ニュータウン区域を結び、市民の生活を支える骨格となっています。
- 周辺市と人やモノをつなぐ軸としての役割も担っており、市の骨格としての軸を維持します。

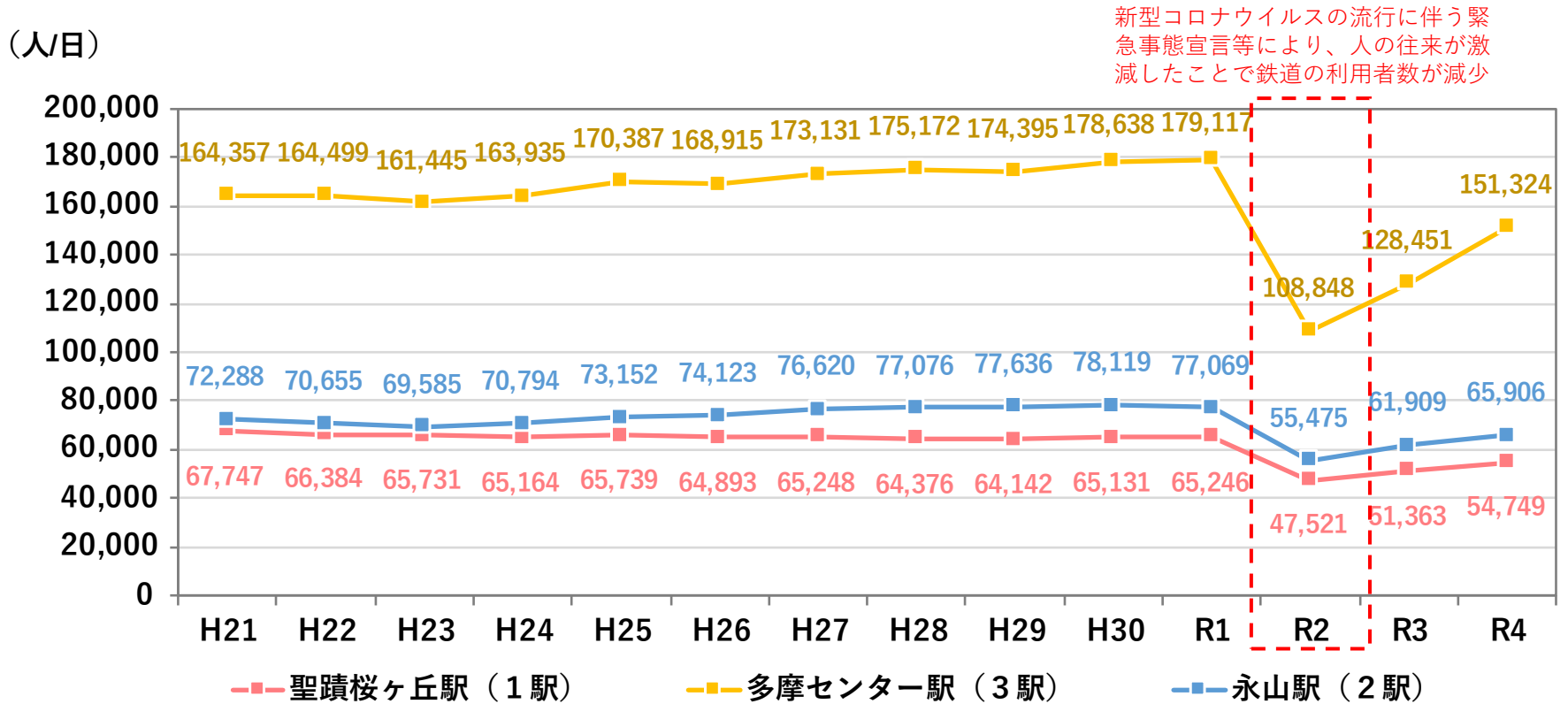
南多摩尾根幹線軸

- 南多摩尾根幹線は、東京都による**4車線化**に向けた整備が進められており、多摩地域の各市を結ぶ軸として、**広域アクセス性の高い**道路です。
- 広域アクセス性を活かした多摩ニュータウンにおける新たな付加価値を創造する場として、沿道では次世代を見据えた産業・業務、商業機能の誘致や育成を図るなど、これまでの**土地利用からの転換に向けた検討**が進められています。
- 特に、諏訪・永山地区の尾根幹線沿道は、南多摩尾根幹線沿道区域のモデル地区に設定し、都心からのフロントエリアとして、来街者を呼び込み、地区全体の交流人口を増やすことで、**多摩ニュータウンの活性化**を図ります。また、永山駅周辺と連携を図りながら、**賑わいと雇用の創出の場**となることが求められています。



## 2 市内駅の1日あたりの平均乗降客数の推移

- 各駅の日乗降客数の比較では、**多摩センター駅の日平均乗降客数が最も多く**、次いで永山駅、聖蹟桜ヶ丘駅の順に多くなっています。
- 乗り入れ路線の違いはあるものの、**聖蹟桜ヶ丘駅**と比べて**永山駅**の方が日平均乗降客数は多く、概ね10年前と令和4年を比較すると**その差は少しずつ開いてきています**。



※乗入路線数：聖蹟桜ヶ丘駅（京王線）多摩センター駅（京王相模原線、小田急多摩線、多摩都市モノレール）、永山駅（京王相模原線、小田急多摩線）

※出典：多摩市地域公共交通再編実施計画（R2）、各鉄道事業者HP



## 聖蹟桜ヶ丘駅周辺の特徴

### ①概要

- 聖蹟桜ヶ丘駅周辺では、京王百貨店をはじめとする商業施設や業務施設などが駅前を中心に立地しており、川崎街道沿いまで広がっています。
- 一方、**駐車場や空地などの低未利用地がある**ため、より**効果的な土地利用の在り方を検討**することで、**更なるにぎわいの創出**が期待されます。

### ②かわまちづくり

- R2.3月に国土交通省より「聖蹟桜ヶ丘かわまちづくり計画」に登録されたことを受け、R4.8月には「聖蹟桜ヶ丘かわまちづくり協議会」を設立し、**川のある豊かな日常を実現し、駅周辺を含む聖蹟桜ヶ丘のまちの魅力を高めていくための検討や社会実験等を開催**しています。R5.10月には多摩川河川敷エリアに「せいせきカワマチ」の広場がオープンしました。

### ③帰宅困難者対応施設

- 聖蹟桜ヶ丘駅近辺には、帰宅困難者の一時滞在施設として、**ヴィータ・コミュニネ（収容人数：740人）、関・一つむぎ館（収容人数：260人）**の1,000名が収容可能となっています。

### ④聖蹟桜ヶ丘駅北地区周辺地域街づくり

- 聖蹟桜ヶ丘北地区土地区画整理事業の区域内では、市の玄関口として**にぎわいの創出と利便性の向上、多摩川への親水軸（回遊性の向上等）の形成**、定住人口の増加やまちの活性化等に寄与する開発が進み、タワーマンション・商業施設の整備が進んでいます。

### ⑤聖蹟桜ヶ丘西側地域街づくり

- 地域の良好な住環境の維持・向上と低未利用地等を有効活用した**賑わいと活力ある街づくりを目指し**、街づくりの目標やテーマ、街の将来像に関する計画を策定するため、地域住民が主体となり地域街づくり協議会が設立され、**地域街づくり計画の検討**が進んでいます。



※出典：ふるさとマップ 聖蹟桜ヶ丘駅周辺

## 多摩センター駅周辺の特徴

### ①概要

- 多摩センター駅周辺では、駅南側を中心に商業・業務施設、遊興施設が集約しており、市内外からの来訪者が多くなっています。
- 一方、開発時に整備された時代の背景（ニーズ）から、近年のライフスタイルの変化や新型コロナウイルスの影響により、**街のつかい方が大きく変化してきています**。公共施設のリニューアルや既存の都市基盤の有効活用などにより、**将来も持続可能な多摩センターの街のあり方を考える必要があります**。

### ②広域交通環境の変化

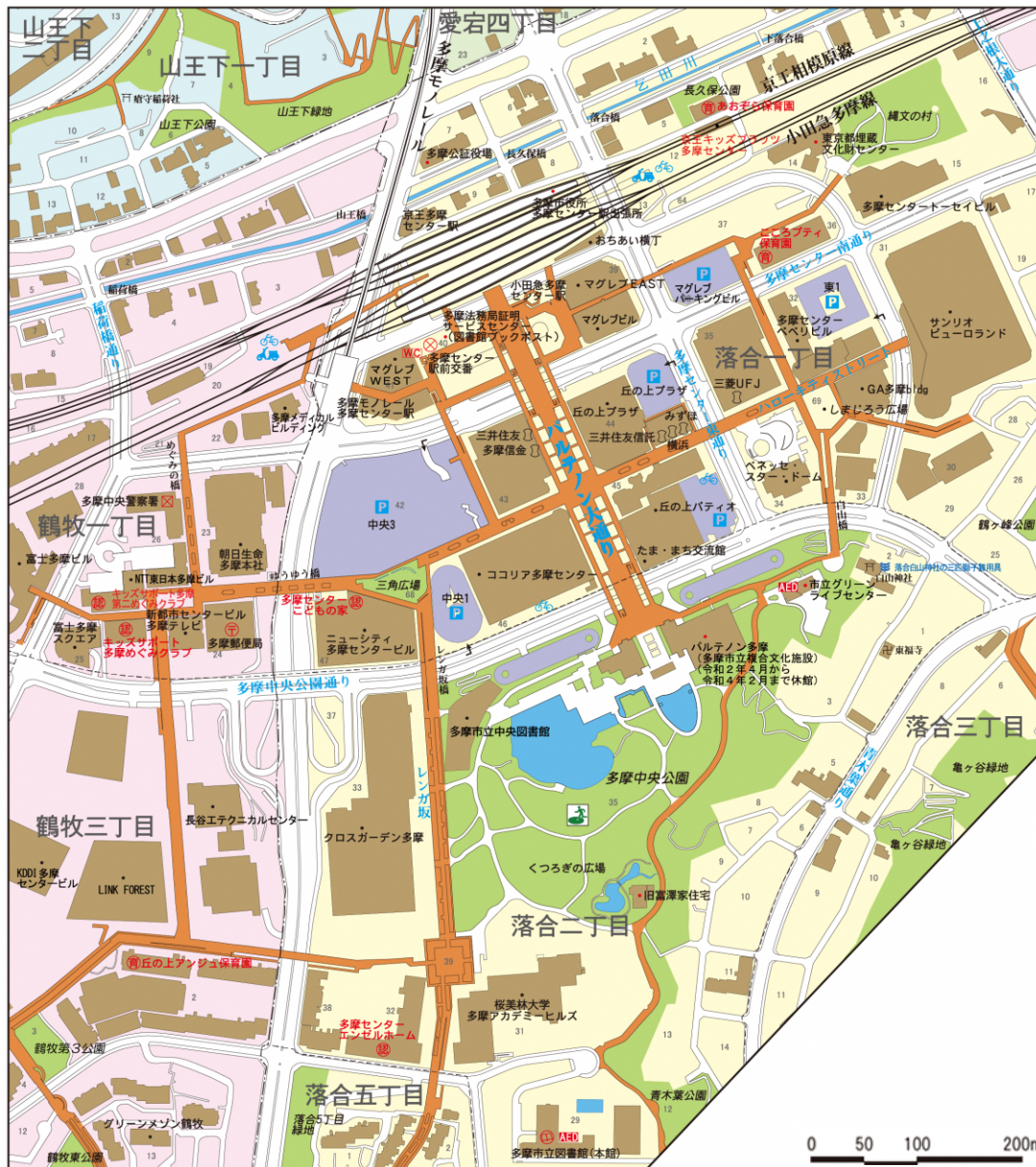
- 多摩都市モノレールの延伸構想や橋本駅を停車駅とするリニア中央新幹線が事業中であり、**周辺市との連携強化や多摩市への来訪者数の増加**などが見込まれ、広域交通環境の変化に配慮したまちづくりが必要となります。
- 多摩都市モノレールの町田方面への延伸ルート案を基に、モノレールが走るまちの将来像やまちづくりの方向性、段階的な取組方針を示す「モノレール沿線まちづくり構想」の策定を進めています。

### ③駅前空間

- バスロータリーには多くのバス路線が乗り入れ利便性が高いものの、施設内の階層移動が必要であり、**バリアフリーに課題があります**。
- 駅から続くパルテノン大通りは、自転車歩行者専用道路であり、多摩センターを象徴する通りとなっています。デザイン等、沿道施設との調和を含め、**社会実験での活用等を通じ、有効活用を検討する必要があります**。

### ④帰宅困難者対応施設

- 多摩センター駅周辺には、帰宅困難者の一時滞在施設として、**パルテノン多摩（収容人数：1,400人）**があり、**1,000名以上の帰宅困難者の収容が可能な大規模施設**があります。



## 永山駅周辺の特徴

### ①概要

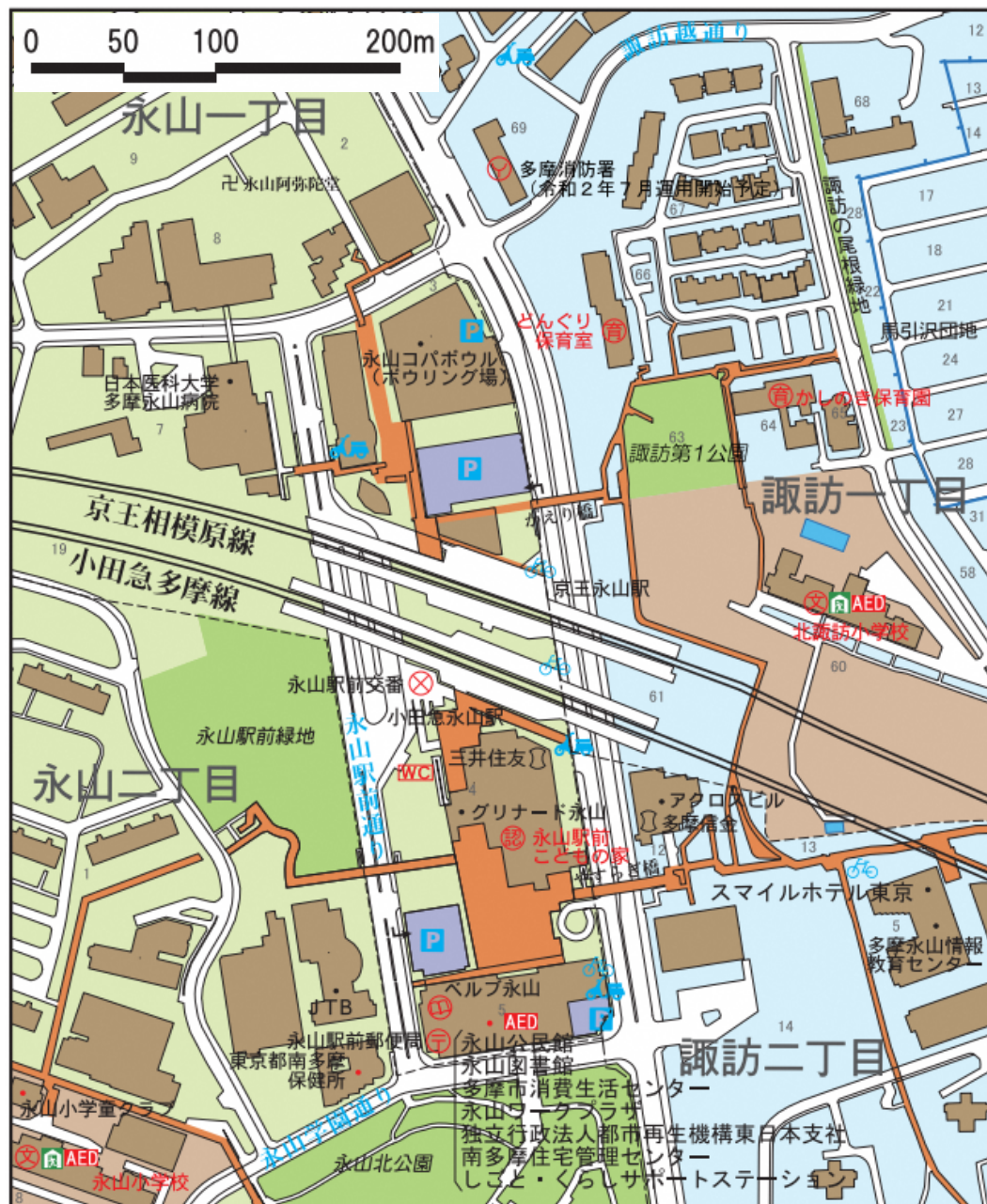
- 永山駅周辺では、グリナードなどの商業・業務施設や遊興施設、病院、公共施設などの生活利便施設が集積しています。
- 諏訪・永山地区は、多摩ニュータウンの初期入居地区であり、**建物の高経年化が進んでおり更新の時期**を迎えています。
- また、丘陵地であることから高低差があり、駅の南北動線及び駅から周辺地区へのアクセスに**バリアフリー上の課題**があります。

### ②駅前の魅力向上

- 永山駅は2路線の乗換駅かつ特急・快速停車駅であるとともに、生活利便施設が集積する駅拠点と住宅地が近く暮らしやすいなどのポテンシャルを有しています。
- 建物の更新に合わせて駅周辺の再構築**を検討し、**にぎわい空間の創出**や**バリアフリーの整備**などにより、**駅周辺のポテンシャル、魅力の向上**を図っていく必要があります。

### ③帰宅困難者対応施設

- 永山駅周辺には、帰宅困難者の一時滞在施設として、**ベルブ永山（収容人数：410人）**が収容可能となっています。



## 南多摩尾根幹線軸の特徴

### ①概要

- 尾根幹線の4車線化と公的賃貸住宅の再生などを契機に、住宅地から新たな土地利用への転換を検討し、**賑わいと雇用の創出の場**の実現を目指しています。

### ②全体土地利用方針

- 2040年代を想定した尾根幹線沿道全体で共通する内容・イメージを示しており、これらの機能が複合、連携することで**一体的な沿道拠点の形成を誘導**します。
- 方針1) 産業・業務機能**  
多摩ニュータウンの優れた防災性を基盤に、尾根幹線の広域アクセスポテンシャルを活かした産業・業務の集積
- 方針2) 暮らしを支える機能**  
尾根幹線の広域集客ポテンシャルを活かした便利で楽しい暮らしを支える機能の充実
- 方針3) 職住近接**  
多摩ニュータウンの住環境のポテンシャルを活かした住職近接を実現する場の形成
- 方針4) 賑わい・魅力発信**  
多摩ニュータウンの自然環境ポテンシャルを活かした体験型の賑わい・魅力発信
- 方針5) 次世代交通モード**  
あらゆる場とヒト・モノ・コトをつなぐ次世代交通モードへの対応
- 方針6) イノベーション環境**  
多様な主体が連携・融合し、新たな暮らしを創造するイノベーション環境の形成

### ③諏訪・永山エリアの将来像イメージ

多摩ニュータウンにおける  
新たな付加価値をリードする諏訪・永山沿道エリア  
～広域ポテンシャルを取り込み、次世代を見据えた産業・業務、商業機能の誘致や育成を図り、既存資源・団地再生とともに新たな付加価値を創る～

